

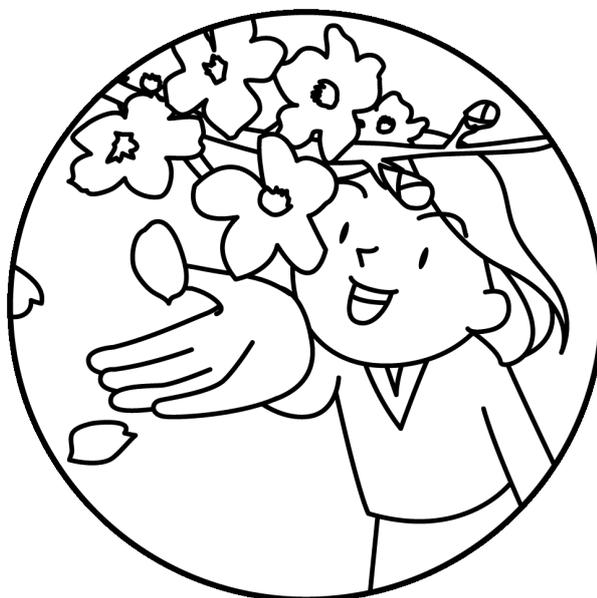
令和2年度

小・義務教育・特別支援学校

若年教員研修1年目 第3回・4回

教科等の学習指導Ⅱ（外国語） 教科等の学習評価と改善Ⅱ（外国語）

配布資料



福岡県教育センター

目次

- 1 小学校外国語の目標
- 2 外国語における授業づくりの具体
 - (1) 指導のねらいを明確にする
 - (2) めざすゴール像を共有する
 - (3) 言語を学ぶ過程を意識した構成を考える
 - ア 聞くことから話すことへの緩やかな接続を重視
 - イ 子供たちが英語にふれる機会の保障
- 3 外国語の教材
- 4 ティーム・ティーチング
 - (1) ティーム・ティーチングとは
 - (2) ティーム・ティーチングの進め方と役割分担
- 5 指導と評価の一体化

【資料】

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
小学校 外国語・外国語活動編（事例1）



1 小学校外国語の目標

【小学校学習指導要領、中学校学習指導要領（平成29年告示）】

小学校（外国語活動）	小学校（外国語科）	中学校（外国語科）
段階的に、コミュニケーションを図る資質・能力を育成		
3領域 聞くこと、話すこと[やり取り]、 話すこと[発表]	5領域 聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと	
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
知 識 ・ 技 能		
慣れ親しみ	慣れ親しみ → 定着	
<p>（1）外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p>	<p>（1）外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>

思考力・判断力・表現力

自分の考えや気持ち、情報などを伝え合う力

(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力・人間性等

文化に対する理解、相手(他者)への配慮

(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

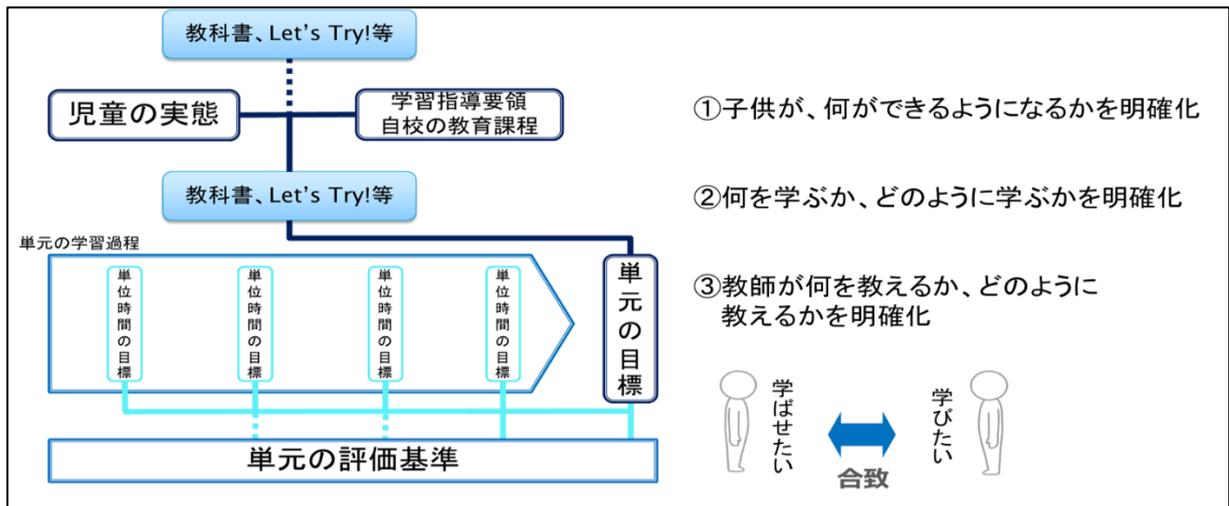
(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 外国語における授業づくりの具体（参考：教科等の学習指導 I 学習指導のデザイン）

(1) 指導のねらいを明確にする

《授業づくりの進め方》



授業をつくる際、教科書を見ながら「次は何を教えるのかな」ということからスタートすることはよくあると思います。その時、「教科書をどう教えようか」ではなく、「子供たちはこの単位を通してどんなことができるようになるのかな」と考えてみてください。そのためには、子供たちの生活経験やこれまでの学習内容を分析して、どのような英語を使えるか、どのような場面で英語を使ってきたかなどの実態を把握することが大切です。その上で、教材に照らして単元の目標を設定し、関係する領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）ごとに、単元の評価規準を設定します。評価規準を設定するという事は、子供たちがどのようなことができるようになるかを、関係する領域ごとに具体的にすることです。

➤添付資料「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参照

活動が中心の外国語においては、上の図の①②と③を合致させていくために、次のような視点が大切です。

- ・ 子供の実態に合った活動の設定になっているか
- ・ 子供の興味・関心に合った活動の設定になっているか
- ・ 設定した活動が目標の達成につながっているか

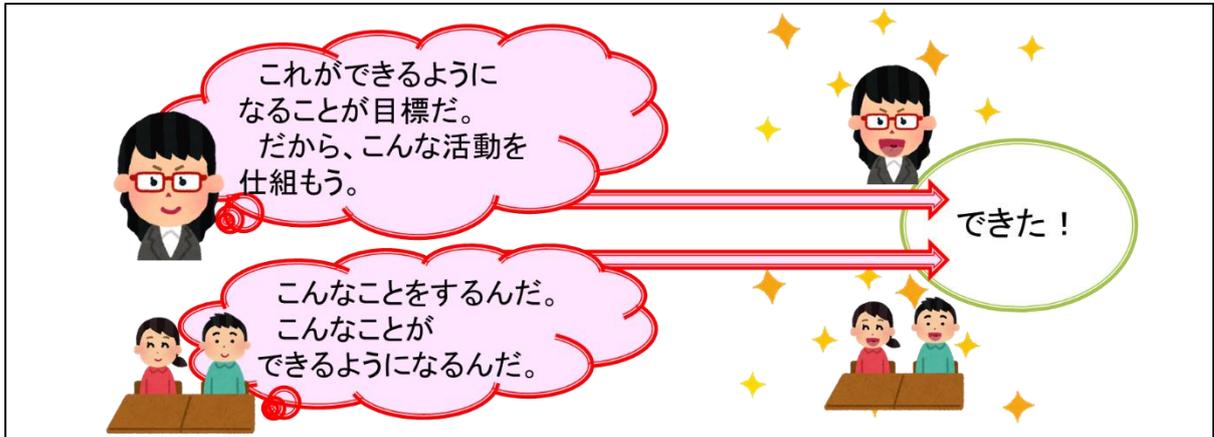
活動の楽しさやゲーム性ばかりになると、「楽しかったけれど、何ができるようになったのか実感がない」、教師の意図が先行して複雑な活動や子供たちが必然性を見いだせない活動ばかりになると、主体性のないものになってしまいます。目標や評価規準を設定することを通して、子供たちがどのようなことができるようになるのかを教師が具体的にイメージすることで、設定する活動もより適切なものになっていきます。

(2) めざすゴール像を共有する

子供に身に付けさせたい資質・能力が明確になり、授業の計画が具体化されてくると、「これを教えなければならない」「これをできるようにさせたい」という使命感から、教師の意図によってのみ授業を行ってしてしまうことがあります。子供たちは、その活動が自分にとってどんな意味があったのか、どのような学び方をしたからできるようになったのかといった意識をもつことが難しくなってしまいます。そこで、授業を行う際には、次のような視点が大切になります。

- ・教師が目標としていることが、子供たちにとっても目標として共有できるようにする。
- ・子供たちが、どうしたら目標を達成することができるかを考えながら学習に取り組むことができるようにする。

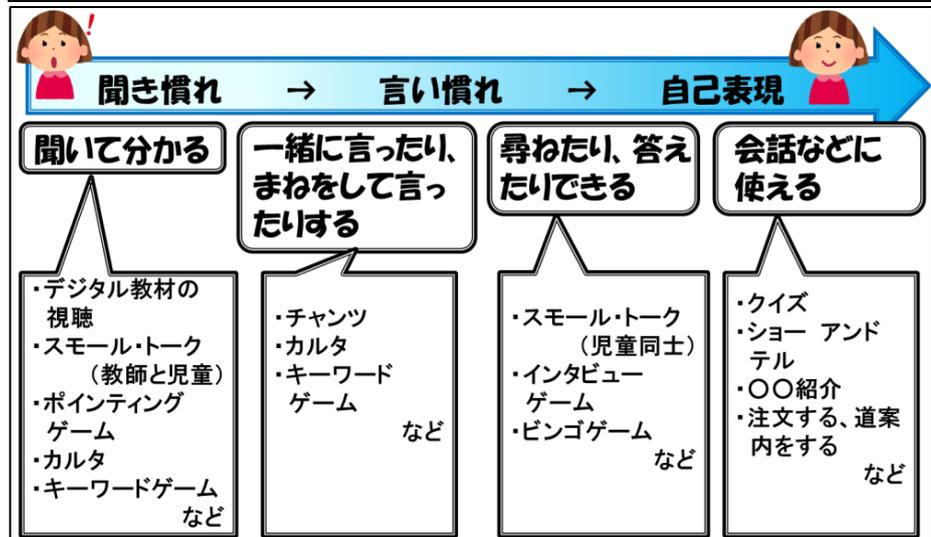
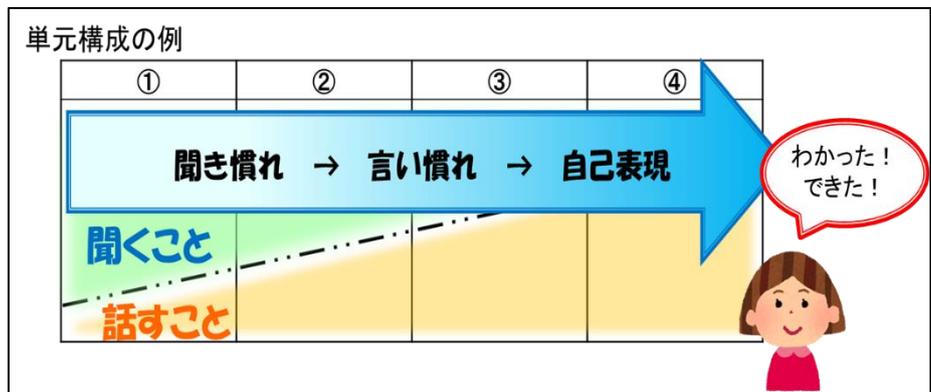
(例) 単元の最初に ALT が地域のおすすめの場所を教えてほしいというビデオレターを紹介し、地域のおすすめの場所を ALT に紹介することをゴールの活動として設定。紹介するためにすでに知っていること（地域の様子、英語表現等）、新しく必要なことを子供たちと一緒に考えて学習計画を立てる。



(3) 言語を学ぶ過程を意識した構成を考える

ア 聞くことから話すことへの緩やかな接続を重視

一般的に、言語は音声に十分慣れ親しむことから習得が進んでいくと考えられています。ですから、外国語学習の導入期である小学校では特に、聞く活動から単元や1単位時間の活動を構成していくこととなります。つまり、単元や1単位時間の導入場面では、語彙、表現との出会いを大切にします。どのような場面でどのような表現が使われているのかを、子供たちが気付いたり十分に考えたりすることができます。つまり、まずは聞き慣れです。そのうえで、少しずつ話すことに慣れ親しんでいくようにします。



イ 子供たちが英語にふれる機会の保障

(子どもたちがなるべく回数多く言ったり聞いたりできるようにしているか)

授業を構成する際、次の二つを意識しながら、子供たちが十分に聞いたり話したりする活動を設定することが大切です。

①聞いたり話したりする必然性がある

外国語活動も外国語科も、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが目標です。コミュニケーションを図るためには、決まったことを言う力ではなく、相手や場面に応じて伝え合う力が求められます。自分だったらどのようなことを伝えるか、どのように伝えるか、相手から聞きたいことは何かなどを子供たちが考え、実際にやってみるためには、自己表現の機会をつくる、情報の差(自分は知っているが相手は知らない、又はその逆)を活用するなど、聞いたり話したりする必然性を生み出す場面の設定や活動の工夫が必要です。

②相手意識

コミュニケーションを図る上で、相手意識は不可欠なものです。互いに心地よい会話にするために、伝わっていることを伝えるためのリアクションや分かりやすく話す(話す速さ、ジェスチャー、繰り返しなどを行う)必要性は、相手意識があるからこそ生まれるものであると言えます。

聞いたり言ったりする必然性があることと相手意識を生み出すことは、強く関連しています。ですから、教師がこの二つを意識することでコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することにつながります。

○聞く機会の例

- ・クラスルーム・イングリッシュの活用、モデル演示など、指導者が英語を使うこと
- ・絵本の読み聞かせ

○話す機会の例

- ・活動の工夫(歌、ゲーム、インタビュー、発表など)
- ・活動形態の工夫(ペア、グループ、1対全体など)
- ・場の工夫

◆クラスルーム・イングリッシュ

クラスルーム・イングリッシュは、児童のリスニング能力を飛躍的に向上させるというのではなく、「英語の授業の雰囲気づくり」としての意味合いが強い。また、教師が積極的に英語を使用することにより、児童が一生懸命に教師の英語を聞こうとする態度を引き出すことにもなる。指導者(日本人の教師)も英語を使うよいモデルとして、授業中の指示や質問にできるだけ英語を使うように努力したいものである。

クラスルーム・イングリッシュを用いるときには、ふだん日本語で児童に話すときと同じように、児童の理解の程度を確かめながら、ゆっくり、はっきりと言うように心がける。いくつかの指示を出さなければならないときは、一度にたくさんの指示を出したり、長文で指示をしたりすることは避け、簡潔な文で一文一文児童の理解を確認しながら指示するなどの配慮が必要である。

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックより引用)

◇クラスルーム・イングリッシュの例◇

活動の始まり	(STARTING ACTIVITIES)
1 ゲームをしましょう。	Let's play a game.
2 チャンツを練習しましょう。	Let's practice a chant.
3 歌を歌いましょう。	Let's sing a song.
4 手を叩きましょう。	Let's clap our hands.
5 この歌を知っていますか。	Do you know this song?
6 机を寄せなさい。	Put your desks together.
7 机を後ろに下げなさい。	Move your desks to the back.
8 すべて片付けなさい。	Put everything away.
9 消しゴムを2人の間に置きなさい。	Put one eraser between you and your partner.
10 [テキスト/ワークシート/筆箱/ファイル] を取り出しなさい。	Take out your [textbook / worksheet / pencil case / file].
11 テキストを片付けなさい。	Put away your textbook.
12 机をきれいにしなさい。	Clear your desks.
カード・ゲーム	(CARD GAMES)
1 カードを取り出しなさい。	Take out your cards.
2 カードの表を [上に/下に] して置きなさい。	Put your cards face [up /down].
3 カードを裏返しなさい。	Turn over your cards.
4 カードを配りなさい。	Deal the cards.
5 カードを切りなさい。	Shuffle your cards.
6 カードを1枚取りなさい。	Take one card.
7 チームに1枚ずつです。	There is one card for each team.
8 カードを交換しなさい。	Exchange cards with a partner.
9 カードを(隣の人に/後ろに/前に)まわしなさい。	Pass the card (to the next person / backward / forward).
10 カードを掲げなさい。	Hold up your cards.
11 カードを(体の後ろに)隠しなさい。	Hide the cards (behind your back).
12 カードを机の上に広げなさい。	Spread the cards out on the desks.
13 カードを友達に見せてはいけません。	Don't show your cards to anyone.
14 カードを持ってきなさい。	Bring your cards to me.
15 カードを集めなさい。	Collect your cards.

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック参照)

◆スモール・トーク

Small Talk とは、高学年新教材で設定されている活動である。2 時間に 1 回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5 年生は指導者の話を聞くことを中心に、6 年生はペアで伝え合うことを中心に行う。
(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックより引用)

◇スモール・トークの例◇

(5 年生) UNIT 2 When is your birthday?

T: My birthday. My birthday is January 2nd. It's during Oshogatsu.

When is your birthday? January? February? March? When is your birthday, Ken?

S1: 5 月 19 日

T: I see. May 19th. Your birthday is May 19th. Good. How about you, Yoko?

S2: 12 月 22 日

T: December 22nd. Your birthday is December 22nd. It's during the Christmas season.

Nice. What do you want for your birthday? As a birthday present. Me? I want a new watch. How about you?

(5 年生) UNIT 6 I want to go to Italy.

T: This is Japan. (世界地図を示しながら)

We live in Japan. We are from Japan. Tom sensei is from Canada.

Where is Canada? Yes. It's here.

There are many countries around the world. For example, Australia, India, Kenya, Egypt, Brazil and so on.

Which country do you want to go to? Where do you want to go?

Me? New Zealand! (ニュージーランドの風景写真を見せながら)

I want to go to New Zealand. Look. It's beautiful! I want to go to New Zealand.

You can see beautiful mountains, beautiful beaches and beautiful lakes in New Zealand.

And I have a friend in New Zealand. I want to meet my friend, an ALT, Kate sensei!

She is from New Zealand. She is a teacher in New Zealand now.

So I want to go to New Zealand. Do you want to go to New Zealand, too?

(6 年生) UNIT 4 I like my town.

S1: My favorite place is the library.

S2: The library? Why?

S1: I like books.

S2: What books do you like?

(6 年生) UNIT 5 My Summer Vacation

S1: What food do you like in summer?

S2: I like watermelon.

S1: Me, too. Why?

S2: It's sweet. How about you?

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック参照)

3 外国語の教材

外国語活動には文部科学省が作成している「Let's Try!」があります。教科化にともない、5、6年生は教科書を使用します。どちらの場合も共通しているのは、言語を学ぶ過程を意識した構成になっていることです。子供たちの学びの状況と学習のねらいに応じて活用することが大切です。

文部科学省作成 新学習指導要領対応 外国語活動教材「Let's Try!」(小学校中学年用)

「Let's Try!」(小学校中学年用)のポイント

- 「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の三領域における言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成
- 初めて外国語に触れる児童が積極的に話したり聞いたりするようにするため、**中学年という発達段階に合わせて、扱う題材や活動、語彙、表現を設定**
(例)中学年児童にとって身近な動物や食べ物、文房具、教室名など
- 扱う語彙や表現が使われる**必然性のある場面を設定**し、児童が語彙や表現の意味を推測したり繰り返し使ったりしながら**体験的に身に付けることができるよう工夫**

5、6年生は、教科書を使用

- 外国語活動との接続、中学校との接続を意識
 - 学習の見通し、「何ができるようになるか」を明確化
 - 繰り返しの学習
 - インプットからアウトプットへ
- (各教科書会社のホームページを参照)

4 ティーム・ティーチング

(1) ティーム・ティーチングとは

複数の指導者がティームを組んで児童の指導に当たるといことです。したがって、ティーム・ティーチングの意義は、「複数の指導者がいるからこそ可能なことは何か」、「指導者それぞれの適性や個性を生かした授業とはどのようなものか」を考えることと同じです。

複数の指導者がいることの利点については、教室内の児童を一人ではなく二人で見守り、指導することが挙げられます。学級担任や専科教員（以下、「学級担任等」とする）が、単独では気付かない面にALTが目を向けて補助をしたり、全体指導の傍らで個別に支援を必要とする児童に対して声かけをしたりするなど、物理的に複数名の指導者がいるというメリットを生かした役割分担ができるとういと考えます。

◇学級担任等とALTのもつ特性の例◇

学級担任等	ALT
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人一人をよく理解しているため、学習指導と生活指導の両面に配慮し、学級の児童の発達段階に応じた内容を設定できる。 ・ 児童と信頼関係が構築されており、児童が外国語活動や外国語科の授業を担当が担当することに安心感を覚え、リラックスして授業に臨むことができる。 ・ 全教科等を担当しているため、他教科等での学びを外国語学習に取り入れることができる。 ・ 英語学習者の一人として、児童とともに英語を使い学ぶ存在である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせたり、母国の生活や文化等の情報を伝えたりすることができる。 ・ 児童にとって、学んだ英語を実際に使えるコミュニケーションの相手である。

(2) ティーム・ティーチングの進め方と役割分担

ALTとティーム・ティーチングを行う際は、「誰が、どこで、何を、どのように行うか」を共有しておくことが大切です。その際、ALTに英語で説明する必要がある場合もありますが、使用する教材や教科書のページを示したり実際に活動の一部を行ったりしながら説明することで伝わりやすくなります。また、学習指導計画にハイライトをすることでALTとの役割分担を示すなど、実態に応じた工夫が必要です。ティーム・ティーチングを進める上で大切なことは、授業を行うパートナーとして互いのことを尊重し合う関係づくりだと考えます。

◇ティーム・ティーチングに活用できる表現の例◇

ALT と授業の打合せをする	
今授業について、話せますか？	Can we talk about the lesson now?
子供たちに挨拶してください。	Please greet the class.
天気をたずねてください。	Please ask about the weather.
何かいいアイデアはありますか？	
何か面白いゲームを知っていますか？	

ALT との打合せを効率的に進めるためには、ALT にお願ひしたいことを学習指導計画に沿って伝えることがおすすめです。また、ALT によっては子供たちが楽しみながら英語に慣れ親しめるような活動を知っています。アイデアをもらい、学級の子供たちに合わせて取り入れてみることもできます。

ALT とゲーム等の説明をする	
1 私たちにゲームのルールを説明してください。	Please explain the rules of the game.
2 スキットをやってみせましょう。	Let's demonstrate the skit to the class.
3 「ポケットに何を持っていますか」と私にたずねてください。	Please ask me the question, "What do you have in your pocket?"
4 あなたは A をしてください。私は B をします。	You'll be A, and I'll be B.
5 やりたい人がいるかたずねてください。	Could you ask for volunteers?
次時以降について伝える	
1 これは次の時間の指導案です。	This is the lesson plan for the next class.
2 次の時間では新しい活動を始めます。	We will start a new activity in the next class.
3 次の時間はいろいろな言葉での挨拶について学びます。	In the next class, we will learn about greetings in many languages.

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック参照)

5 指導と評価の一体化

(1) 学習評価は何のためにするのか

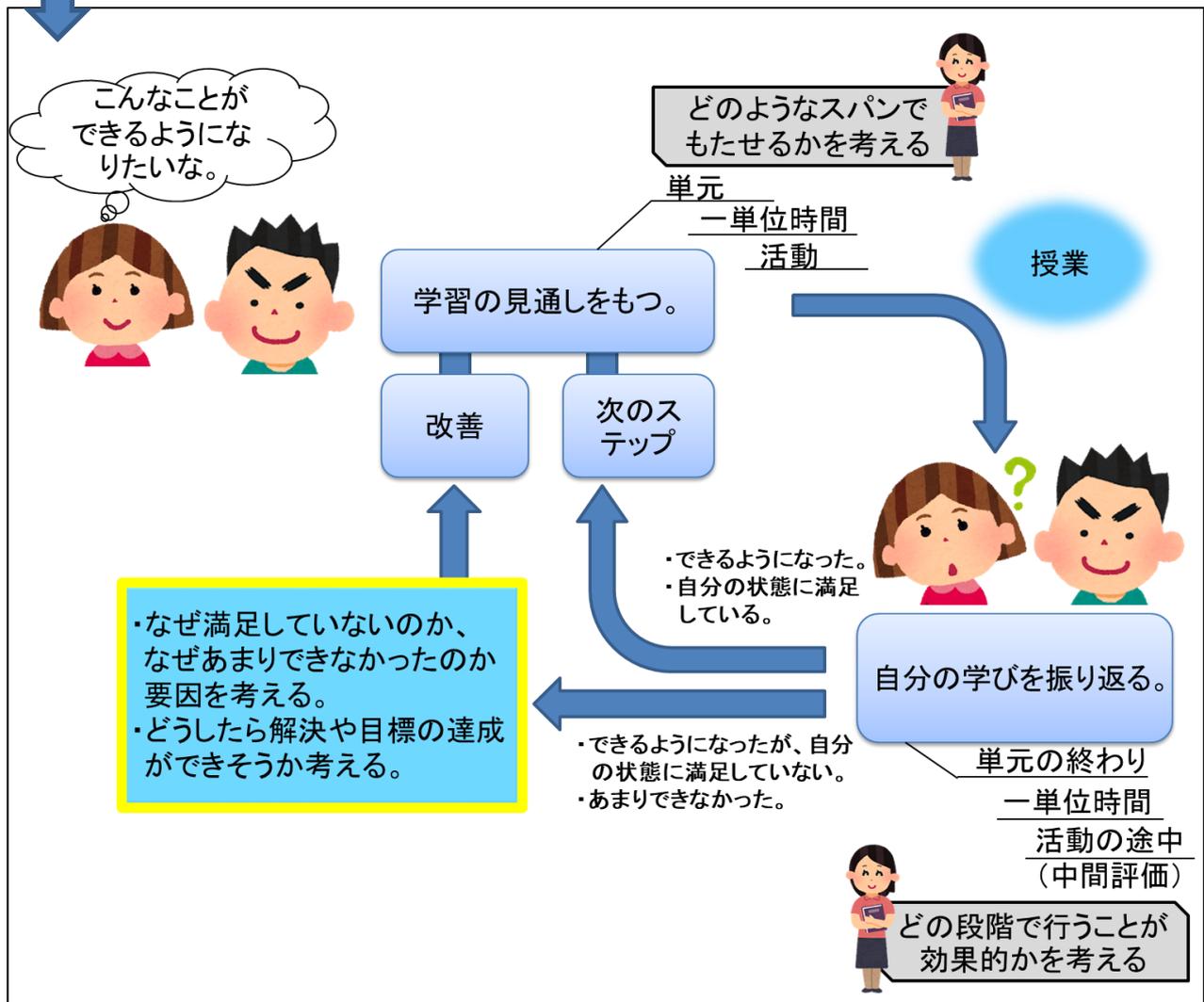
2 学習評価の充実

(1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

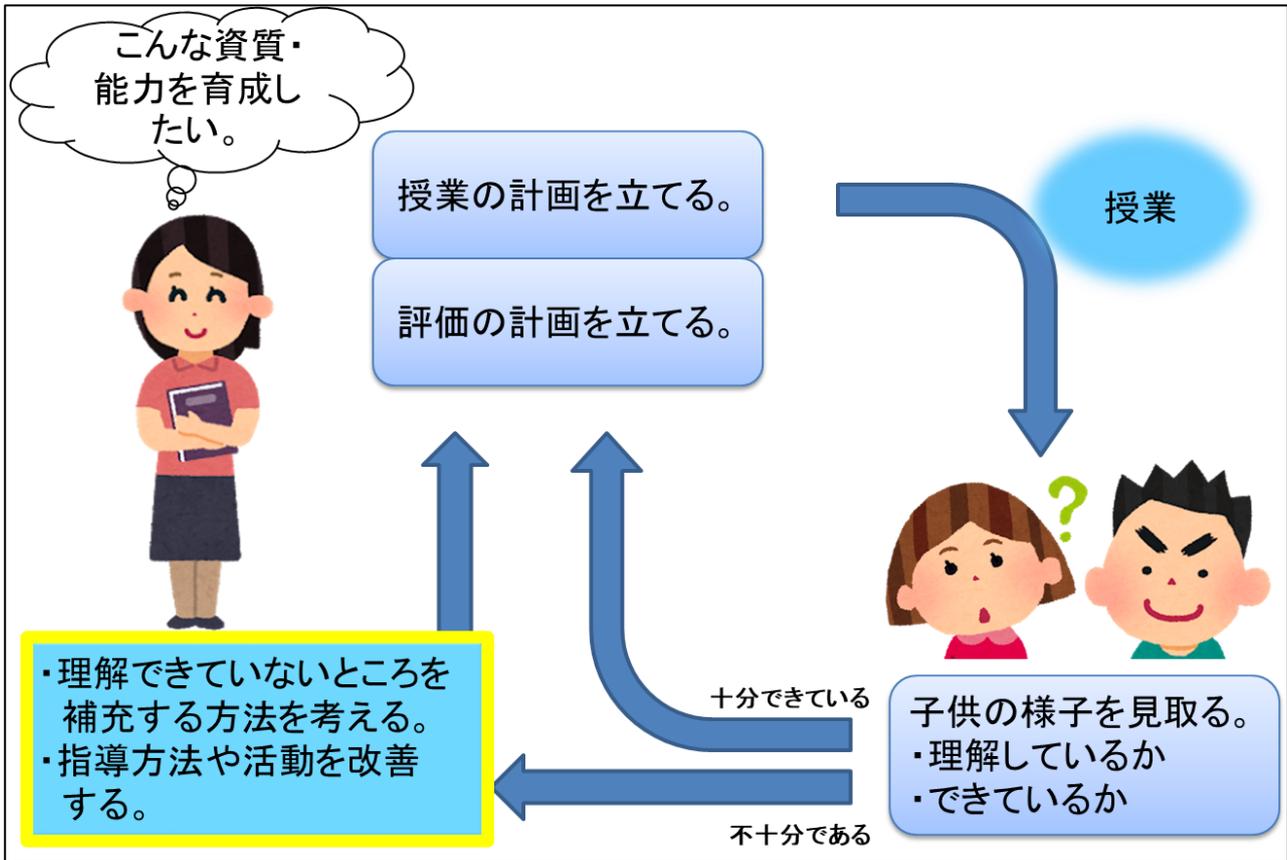
(小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編）

学習評価は、子供に自分の学びを自覚させるためにすると言えます。自分の学びを自覚することで学習に見通しをもったり学習を振り返ったりすることができます。

学習評価をすることは、自分の指導を振り返り、改善することにつながります。例えば、目標の達成状況が低い場合は、補って指導したり指導方法を改善したりしま



教師の立場から学習評価と授業改善を見ると、下の図のようになると考えます。ここで大切なことは、子供たちの姿から、十分に理解できているかそうでないかを見取ることです。そして、十分でないときにはどのような対応をするか想定しておきます。その判断のためには、評価規準を設定していくことが必要です。▶添付資料「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参照



学習評価のポイントをまとめると下のようになります。指導と評価は、別々に考えるものではなく、表裏一体となって進めていくものです。

- ✔ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✔ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✔ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では〇〇を重点的に指導しよう。

〇〇のところはもっと～した方がよいですね。

詳しくは、平成31年3月29日文科科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm)



(2) 学習評価はどのように進めていくか

外国語の授業場面では、子供たちがインタビューをしたりクイズを出し合ったり、カルタやビンゴゲームなどをしながら英語を発音したり聞き取ったりしている姿が見られると思います。その際、「楽しそうに笑顔で活動している」「うなずきながら聞いている」「ジェスチャーをたくさんしている」などの姿が印象的だと思います。ここで大切なことは、「楽しそうに笑顔で活動している」「うなずきながら聞いている」などの姿を生み出すことが目標なのか、それらを前提として、どのような英語を使って、どのようにコミュニケーションを行っているかといった達成すべき目標があるのかを意識して見取ることです。

子供の姿を記録すると、このような姿を生み出した要因は何か気になりませんか。「楽しそうに笑顔で活動している」ように見えるのは、それまでの活動で英語を使うことに十分慣れ親しみ、自信をもって話すことができているからかも知れませんし、聞き手の反応がよかったからかも知れません。ユニットで身に付けさせたい表現に加えて、既習の表現をいくつも使って話しているのは、伝えたいと思わせる目的意識をもたせているからかも知れません。このように、本時の活動の流れを見つめ直したり子供たちの思考を想像したりすることが子供の学びの姿を生み出した要因を考える手がかりになりますし、前時や前のユニットとのつながりを見つめ直すことで見えてくる場合もあると思います。



【参考文献、資料】

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編、文部科学省

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編、文部科学省

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（平成 29 年）文部科学省

学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編（令和元年）国立教育政策研究所

(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動編

(令和 2 年) 国立教育政策研究所

平成 29 年度版小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語（2017 年）大城賢、東洋館出版社

文部科学省 外国語教育 (http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/)

独立行政法人教育員支援機構 校内研修シリーズ (<https://www.nits.go.jp/materials/intramural>)